谷口商会の環境対策資材

急流対応 吸着型オイルフェンス

従来の大型フェンスが苦手とする急流、浅流、護岸などで、油の流下拡散をしっかり防ぐことができます。

RAPIC OIL FENCE

ラピック オイルフェンス

小型で高性能の**パラペットフェンス**と油吸着力と制渦力をもつ**ラフトフェンス**をプラスできる 新発想の**コンビネーション型オイルフェンス**です。

寸法

	寸　法	重　量
パラペットフェンス	長さ 2 m　幅15cm	1.5kg/本
ラフトフェンス	長さ 2 m　幅 8 cm	0.5kg/本

荷姿

パラペットフェンス、ラフトフェンス　各 5本
　＝5ユニット（接続時10m）
※土嚢袋（おもり用）2枚付き
50cm × 50cm × 50cm　段ボール箱入（約11kg）
（補充用など 個別バラ売りもいたします）

材質

●パラペットフェンス（緑色）

外　装	：ターポリン
チェーン・蝶ボルト・蝶ねじ・板材	：鉄（亜鉛メッキ）
シャックル（チェーン接続金具）	：ステンレス
浮　体	：発泡ポリエチレン

●ラフトフェンス（白色）

外　装・紐：ポリエステル
吸着材：スミレイ（コーヒー豆焼成浮遊活性炭化物で一旦吸着した油を再放出しません）
浮　体：発泡ポリエチレン（油で劣化しにくい素材です）

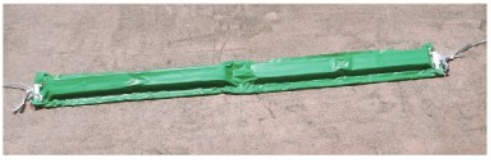
パラペットフェンスは、単体でも大型フェンスと同等の油防除力をもちます

◉大型オイルフェンス（オレンジフェンス）と同じく、**流速0.2m/秒**まで軽油・A重油・作動油などの低粘度油の潜り抜けを防ぐことができます（1本だけ「U字」（直角）展張した場合）。

◉しかも水深の浅い場所でも使えます。

◉また、パラペットフェンスは0.75kg/mと軽量なので、少人数でも迅速に防除力の高い「斜め」「二列平行」展張ができ、実際には**流速0.4m/秒**の河川でも油を止めることができます（30度の鋭角展張の場合）。

◉川幅の広い場所では数本を連結します（チェーンで荷重を受けるので丈夫です）。
現場にあわせて長さに簡単に調節できます。
0.5mごとに折りたたむことができるので、連結したままでも保管場所をとりません。

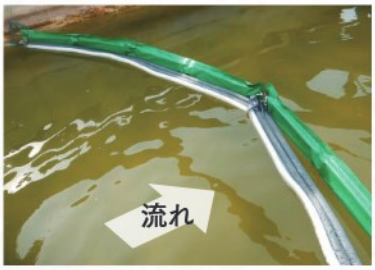


◉オレンジフェンス同様、万一の油流出に備えて予防的に日頃から展張しておくこともでき、再利用もできます。

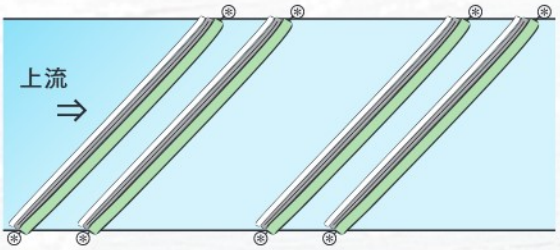
パラペットフェンスにラフトフェンスを接続すると、防除力がさらにアップします

◉流速 0.25mの流れを直角に受けても、油が潜り抜けなくなります。

◉「二列平行」「斜め」展張なら 0.5m/ 秒（1ノット）の急流でも油を止めることができます（30 度の鋭角展張の場合）。



◉距離をあけて数段に展張すれば、それ以上の急流でも油を止められます。



なお、ラフトフェンスは油吸着能力をもちますが、量的限界があります。
また、多量の油を吸着させると、急流（たとえば30度鋭角展張なら0.7m/秒以上）では沈下します。
従って、流出事故時などには、ラフトフェンスの上流側に、浮力の強いオイルマット（活性炭系、微細繊維系など）を浮かべ続けておくことをお勧めします。

注 オイルマットは油を吸うと浮力が落ちて、どのようなオイルフェンスでも潜り抜けやすくなります。
従って、急流では特に浮力の強いオイルマットを使うことが必要です。

ロープの取り付けかた（ロープはパラペットフェンスだけに取り付けます）

❶パラペットフェンス端部の板金（1 枚）の下に白布テープをはさみ、その白布テープで直径約 7cm の輪を結ぶ。輪をフェンス上部によせ、蝶ネジを締めて位置を固定する。[この形で出荷します]

❷①の輪を通してから、パラペットフェンスの下端のD(ディー)シャックルにロープを結ぶ。
（輪を通しておかないと、空中でフェンスがひっくり返ります。）

❶

❷

❸

なお、白布テープは表裏どちらの板金にはさんでもかまいません。

パラペットフェンス同士のつなぎかた

（想定される川幅に合わせ あらかじめ何本かつないでおくと いざというとき便利です）

❶連結する側の板金、蝶ボルト、蝶ナット、白布テープを、両方のフェンスからとりはずす。

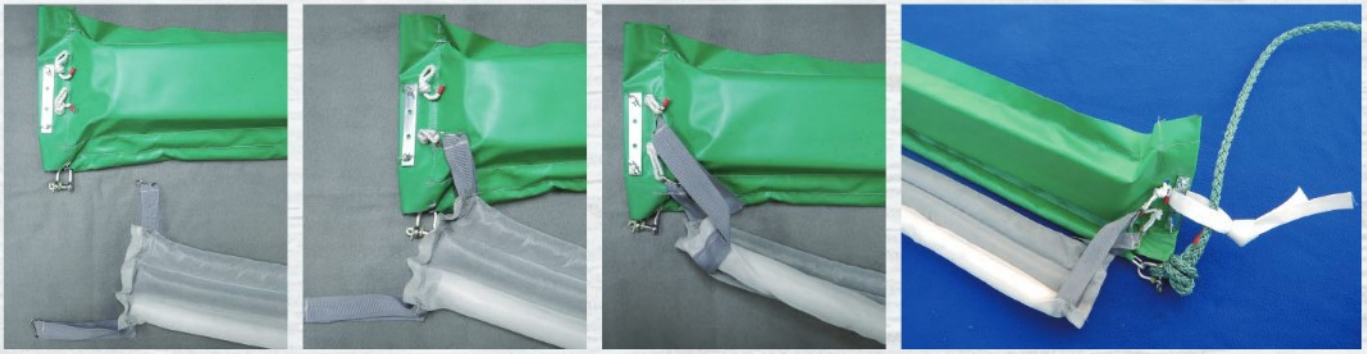
❷両方のフェンスを、ボルト穴が合うように左右から寄せて、板金２枚ではさみ、２組の蝶ボルト・ナットで締めて、隙間がなくなるように締める。

❸両方のフェンスのDシャックル同士をつなぐ。
その後、シャックルピンのゆるみ止めのため、
ビニールタイをDシャックルに巻きつける。

ラフトフェンスの取り付け方

※ラフトフェンスがつく側が上流になることに気を付けてください

- ラフトフェンスの短いグレーテープはパラペットフェンスの下側の白ひも輪にクリップ。
- ラフトフェンスの長いグレーテープはパラペットフェンスの上側の白ひも輪にクリップ。



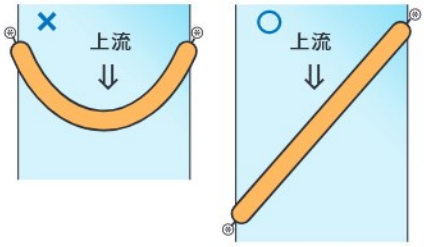
尚、ラフトフェンスにはロープを結びません。ラフトフェンス同士を接続することもありません。

ラフトフェンスの浮かべ方

- パラペットフェンスの上流側に平行に「いかだ」のように浮かべます。
ラフトフェンスの浮体（白）は上流側、吸着材（黒）は下流側（パラペットフェンス側）になります。

水面と岸に段差がある場合も「分岐接続（ブランチング）」で油の潜り抜けを確実に防ぎます（独自技術）

コンクリート張りされた用水路などでは、岸が高くなっていることがあります。そのような場所では、防除力の高い「斜め」展張ではなく、防除力の低い「U字」展張をやりがちです。岸近に油を誘導すると、引き上げられたオイルフェンスの下を油がくぐり抜けるからです。
しかし パラペットフェンスは、切り立った岸辺でも、油のくぐりぬけを容易に防ぐことができます。



緩流

急流

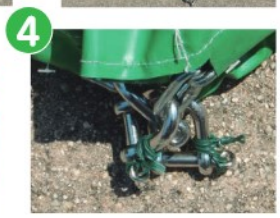
パラペットフェンスの分岐接続の方法

❶川側から1本、岸側から2本のフェンスがやってきて向かい合うように並べる。岸側に必要なフェンスの長さは、落差0.4mごとに2m（1本分）追加される目安です。

❷いずれのフェンスについても、（連結する側の）板金、蝶ボルト、蝶ナット、白テープをとりはずす。

❸3本のフェンスのボルト穴を重ね、そこに板金の穴も合わせ、蝶ボルトを通して締め合わせる。

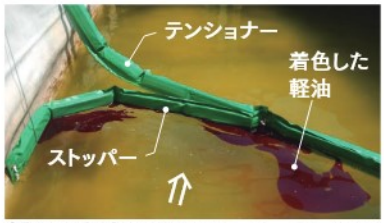
❹3本のDシャックル同士も相互につなぐ。
ビニールタイのゆるみ止めを忘れぬように。

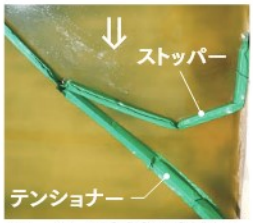


分岐接続したパラペットフェンスの使い方

❶枝分かれした一方は、杭などの支点にロープで固定されて、流れの荷重を受けます（テンショナー）。重石になるものを乗せて なるべく水面に近づけるようにしてください。

❷もう一方は、岸に並行して水面に浮かび、油を集めます（ストッパー）。
こちらのオイルフェンスの上流側にオイルマットを浮かべます。

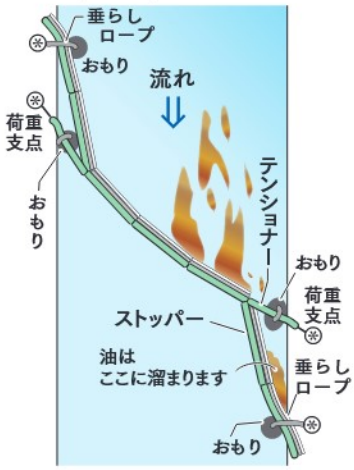




緩やかな流れではストッパーがテンショナーの上流側に来ます。

こちらのオイルフェンスは、先端に錘のついたロープを水中にたらすなどして、岸に押し付けます。

急流ではストッパーがテンショナーの下流側に来ます。



ラフトフェンスを付けるとさらに防除力がアップします

●水面に浮かぶ側（ストッパー）のパラペットフェンスだけに、ラフトフェンスをつけます。

※カタログ掲載の製品につきましては予告なく仕様・規格及び価格の変更をする場合があります。

■製造・販売元 谷口商会株式会社
谷口商会 検索
https://www.taniguti.co.jp/
E-mail info@taniguti.co.jp